

成人式だけが特別ですか？

2020年の日本では、新型コロナウイルス感染症予防のため、行事・イベントは中止や変更、オンライン開催が当たり前となっ

を決定する自治体が出始め、報道が目立つようになると、一方で「一生に1回だから」「せめて成人式は」という声が高まった。確かにハタチは1回限り。日本中の市区町村の成人式担当者は日々悩ん

名の爆破予告があり、急遽、会場変更したが、そのときも一堂に会するスタイルだった（本連載第13回・19年4月号を参照）。

館などの事業者も困る。また、成人式開催には、多くの市民ボランティアの協力、交通事業者によるシャトルバス運行もある。2年前の爆破予告に伴う会場変更は間際の判断だったが、短期間で対応できる体力が役所にあつた。今回は、長引くコロナ対応で体力がない。感染拡大が収まる気配はなく、年末年始は人が集まる機会が増え、成人の日の頃に、新規陽性者数増になるのは容易に予測できた。

“三方よし”の職場づくり



大阪府八尾市子ども未来部長(*)・吉川貴代

本連載は「自治体改善マネジメント研究会」のメンバーが執筆しています。同研究会は自治体で改善運動を推進してきた職員と行政経営デザイナー元吉由紀子が共同で設立。実践事例情報を収集、分析し、ナレッジ化して情報発信している。2017年にNPO法人化。ホームページ、Facebook「自治体改善の輪」を運営。

第37回

成人式、再び！ ～今回はコロナ禍で変更～

た。子どもたちの遠足、運動会、修学旅行なども中止や変更。その学年・年齢のとき限りの行事でも感染症予防が優先された。

ところが、成人式は違った。20年12月になり、成人式中止や延期

だに違いない。

主体的にタイミングよく判断！

本市では、例年、総合体育館に新成人が一堂に会して「成人式」を開催してきた。2年前には、匿

は市行政であつて、府ではない。そして、変更するならばタイミングが大事。間際になっての変更や中止・延期判断では、主役の新成人が困る。困るのは新成人だけではない。レンタル衣装、美容室、写真

当日は、全中学校前を含む22か所の撮影スポットにて、新成人たちが、友人同士、家族とともに笑顔で記念撮影。天候にも恵まれ、コロナ禍スタイル成人式を無事に終えることができた。

良質な仕事はチームから！

変更から当日までの1か月間は、チーム八尾市職員の力を発揮。地元企業と調整して、記念撮影看板作成、撮影スポット設置を着々と進めた。また、新成人の恩師のお祝い動画配信、インスタグラムなど、職員は次々と予定していなかったことに精神的に取り組み、部局を超えて連携し「新成人を祝おう」という目標に向かって走った。

* 2021年3月31日現在。